

目標	具体目標	取組方法	成果指標	自己評価		学校関係者評価		今後の取り組み		
				達成度評価(達成率) 達成率=達成値/目標値×100 A:100(目標達成) B:90以上100未満(ほぼ達成) C:70以上90未満(もう少し) D:70未満(できていない)	評価	結果の説明	評価		コメント	
学力向上	基礎学力の定着を図る	プリント配信システム等を利用したドリル学習 ふみふみタイム 書き取り計算大会 家庭学習の推進 辞書の活用 放課後学習(パワーアップタイム)	・学力テストによる習熟の評価 (3・4・5・6年県平均値、1・2年到達度80%) ・学校の勉強は、よくわかる (児童アンケート80%) ・児童は宿題や自主学習を進んでいる (保護者アンケート80%)	達成率 ・・・96% B 児童アンケート・・・111% A 保護者アンケート・・・108% A	B	各学年、見通しがもてるよう学習の流れを児童に提示し、意欲的に学習に取り組めるようにした。また、プリント配信システムを利用したドリル学習により、基礎学力の定着に努めた。放課後、パワーアップタイムを設定し、担任以外の教職員も協力しながら、個別指導の充実を図った。自主学習については、個人差があるようだ。習熟度については、達成値を超えることができなかった。	A	全学年同じテーマで短作文を書く「ふみふみタイム」や、月1回全校で書き取り・計算大会を実施するなど様々な学力向上策への取組が見える。今年度は、放課後に「パワーアップタイム」を設定し、補充学習に力を入れたことが、学力テストの算数の結果に表れたと思う。自習学習の内容については、児童の実態に即した個別指導など自習学習の質を向上させる取組を期待する。	自主学習については、さらに、取り組みやすくなるように、個に応じた指導に取り組む。全国学力調査については、結果を受けての職員研修を行い、県学力調査の結果もふまえて、今後の学習指導に活かしていきたい。日頃の積み重ねとなっているふみふみタイム、書き取り計算大会といった基礎学力の定着だけでなく、引き続き放課後のパワーアップタイムを設定し、活用力の育成にも努めていきたい。	
	活用力・表現力を育成する	教科等で図書館を活用 調べる、比べる、発表するなど幅広く言語活動を導入	・図書館の本やICTを使って、調べたり発表したりすることが上手になったと思う (児童アンケート80%) ・図書館を利用した活動を学習の中で計画的に実施した (職員アンケート80%) ・児童は調べたことをまとめる力や相手を意識した発表の力が付いてきたと思う (職員アンケート80%)	児童アンケート・・・105% A 職員アンケート・・・125% A 職員アンケート・・・114% A	A	今年度の研究の取組として、昨年度までの図書館教育の流れを受けながら、メディア教育の推進を行ってきた。国語や社会科等の学習で、自分が決めたテーマについて調べ学習を行う際、図書館の本やインターネットを活用した。また、伝える相手を意識させ、ICT機器を使いながら分かりやすい発表をめざした。	A	図書館内外の展示等を見ると、大変充実しており、児童の読書環境が一層整ってきたように思う。図書委員会の活動をはじめ、様々な読書活動に関する取組が島根県学校図書館奨励賞の受賞につながったと思う。小学校時期からプレゼンテーション能力を育てていくことは、今後生きて働く力として大変重要だと思う。引き続き指導を続けてもらいたい。	調べたり発表したりする学習については、年間指導計画の見直しを行ったうえで、系統的な指導をしていく。また、学習全体の流れを提示し、目的意識や相手意識をもちながら学習が進められるようにする。ICT機器の効果的な活用方法についても引き続き職員の研修を重ね、児童の一人一人のスキルアップにつなげていく。	
	読書に一層親しませる	おすすめの本の紹介 朝読書 読み語り 委員会活動による読書活動(読書ポイント・読書ビンゴ等) 家読のすすめ 個人差に対する個別の指導	・目標にしていた冊数はだいたい読んだと思う (児童アンケート80%) ・児童の読書の目標を達成させるため、個別の支援ができた (職員アンケート80%) ・児童は家で読書をしている (保護者アンケート80%)	児童アンケート・・・90% B 職員アンケート・・・54% D 保護者アンケート・・・74% C	C	読書ポイントカードに個人目標を設定させ、それを軸に読書活動を推進した。読書量は昨年度に引き続き増加の傾向にある。司書を中心に教科書改訂に合わせ「学年のおすすめる本」リストを作成し選書にも目を向けた指導を心掛けた。毎月の家読も家庭読書に親しみきっかけとなっている。学期末に個人の読書冊数を担任に知らせたが、読書に興味の薄い児童への個別支援には課題が残る。	B	借りても読まずに返却する児童がいると聞いた。借りた冊数だけで読書習慣の定着を見ることはできないので、評価方法の検討が必要である。児童が自発的に読みたいような工夫は難しいとは思いますが、本を好きになったり、楽しく本を読める環境を作ったりしてほしい。読書は読解力の基盤であり、すべての教科の基礎なので、学力向上の視点からも読書の大切さについて保護者にしっかりと伝えていってほしい。	1年間の読書量の目標を立てることは児童の読書意欲を高めることにつながり、全体・個別指導の手がかりとなるのでポイントカードの活動は続けていく。時間はかかるが読書の楽しさを実感すれば「家読」以外での家庭読書も増えると考え。冊数の報告だけでなく支援の方法やヒントを図書館から発信することで、担任による個別の支援に繋げたい。また、保護者にも読書の大切さを伝え、協力を得ながら読書活動に取り組んでいく。	
豊かな心の育成	児童の主体的活動を支援し、集団づくりを推進する	係活動、委員会活動、集会活動等における主体的活動 や行事など本物に触れる体験を推進 学んだことを家庭地域に発信	・児童の自主性が育ってきた (職員アンケート80%) ・学級活動や委員会活動で自分たちのやりたいことが進んできた (児童アンケート80%)	職員アンケート・・・102% A 児童アンケート・・・113% A	A	係活動や委員会活動など、児童が生き生きとまじめに活動する場面が多く見られる。このような活動を通して、児童の主体性が高まり、自他ともに認め合える気持ちが芽生えている。	A	各学年主催の全校遊びや委員会活動など児童が自分たちで計画を立て、主体的に取り組める活動はすばらしいと思う。今後も継続してもらいたい。	今後も主体性を伸ばし、自己有用性を高めるための学級活動・児童会活動を進めていく。来年度より3年間、高学年児童の人数が減少するため、高学年児童への負担過重とならないような計画を年度当初に立案したい。	
	「ひと・もの・こと」の出会いを通して豊かな情感を育てる	ふるさとの人や生き物、仕事や行事など本物に触れる体験を推進 学んだことを家庭地域に発信	・本物に触れる学習を計画通り実施し、児童の発信を支援できた (職員アンケート80%) ・地域の人と学んだり活動したりすることは、楽しい (児童アンケート80%)	職員アンケート・・・114% A 児童アンケート・・・119% A	A	年度当初に今年度の計画を立て、おおむね計画通り実施することができた。地域の人と学ぶことにより、日原の良さに気づき、児童なりに考えたことを地域へ発信した。	A	学習発表会では、各学年の学習成果がしっかりと発揮され、すばらしい内容の発表だった。太鼓やグラウンドゴルフなどのクラブ活動でも、真剣に取り組む姿が見られた。グラウンドゴルフでは、敬老会から参加者を募り、交流することで、高齢者の生きがいになっている。	今年度の振り返りをもとに、次年度への引き継ぎをきちんと行い、継続できる校内体制を確立する。同時に、地域にさらに目を向け、力をお貸しいただける新しい「ひと・もの・こと」の発掘に取り組んでいきたい。	
体力づくりの推進	調和のとれた体力づくりを継続的に実施する	ロードレース大会、縄跳び大会等の実施 朝マラソン・日小ピクス チャレンジカードの活用 遊具の活用	・運動することは楽しい (児童アンケート80%) ・苦手な運動にも、めあてをもって取り組んでいる (児童アンケート80%) ・運動嫌いな児童に対して、実態に応じた働きかけをした (職員アンケート80%) ・児童は、進んで外遊びをしたり、運動をしたりしている (保護者アンケート80%)	児童アンケート・・・117% A 児童アンケート・・・120% A 職員アンケート・・・102% A 保護者アンケート・・・95% B	A	児童の体力向上をめざし、体育科授業内での運動量確保に努めた。また、個に応じてめあてを設定させたり、児童同士の教え合いの場を設定したりすることで、運動が苦手な児童も意欲的に取り組むことができた。また、委員会活動において、ロードレース大会前に体力アップ・外遊び週間を実施したり、冬季に校内ドッジボール大会を実施したりする等、外遊びや運動遊びの啓発にも努め、児童の運動機会を増やすことができた。	A	毎朝の朝マラソンや日小ピクスは大変よい取組であり、日原小の伝統だと思う。ロードレース大会に向けて、家庭で練習する姿も見られた。日小ピクスは体力アップだけでなくリズム感を養うことにもつながると思う。各学年の持久力が県平均を超えていることも、これらの体力向上に関する取組の成果だと思う。	本地域は、放課後(帰宅後)に友達と遊びたくても遊べない環境にある児童が少なくない。また、遊べる環境にあっても、ゲーム等の屋内遊びばかりで、運動遊びをする児童は多くない。今年度は、学校保健委員会を通して、家でも出来る運動の紹介を行った。今後も児童の運動の日常化をめざし、校内だけでなく家庭内での運動啓発を進めていきたい。	
	基本的生活習慣の改善	「早ね・早起き・朝ごはん」を推進する	定期的な生活リズムチェックの実施 児童への啓発活動と個別指導の実施 「すばらしき体・心ファイル」に体の成長記録や生活チェック表等を綴じ、自分の健康管理、健康づくりに活用	・生活リズムチェックを年6回程度実施し、必要に応じて個別指導した (職員アンケート80%) ・早ねに気を付けた (児童アンケート80%) ・決めた時間に起きることができた (児童アンケート80%)	職員アンケート・・・114% A 児童アンケート・・・99% B 児童アンケート・・・96% B	B	生活習慣の確立をめざし、生活リズムチェックを年6回実施した。児童、家庭とも積極的に取り組み、児童の8割は、身につくつがあるが、なかなか習慣づかない児童もいる。実態に合わせて保健指導を行い、行動化につながるような掲示物を作り保健室前に掲示した。また、生活リズムチェックの結果と「すばらしき体・心ファイル」により、集団と個人の課題を知り、自分の生活を振り返った。リアルタイムに生活リズムチェックの結果を職員で共有し、個別指導に活かした。	A	「早ね・早起き・朝ごはん」は家庭でのことであり、家庭できちんと指導することが重要である。朝食を食べない児童が時々いたり、朝食の内容がお菓子だったりする様子を聞くと、今後も学校と家庭とが連携を深め、継続的な取組をしていく必要がある。	今後も継続的に生活リズムチェックを実施していきたい。個に応じためあてや季節に応じた重点目標を設定し、目的意識を持って取り組めるようにしたい。また習慣化しない児童については、家庭と連絡を取りながら個別指導を計画的に実施していきたい。また、学校保健委員会の機会を活かし、学校、家庭の連携をさらに深めていきたいと考える。
		「メディアとの良いつき合い方」を推進する	定期的な生活リズムチェックの実施 児童・保護者・地域への啓発活動と児童の個別指導の実施	・家族で作ったゲームやパソコンについてのルールを守れた (児童アンケート80%) ・メディアに触れる時間が2時間以内である (保護者アンケート80%) ・「メディア」のかわりに読書や家族の触れ合いの時間が増えたと思う (保護者アンケート80%)	児童アンケート・・・108% A 保護者アンケート・・・74% C 保護者アンケート・・・80% C	C	生活リズムチェックには、児童・家庭とも積極的に取り組んでいる。ゲームやパソコンの使用についてはルールを守ろうとする意識が高いが、メディア全体では接する時間が長いと感じている保護者が多い。メディアに関する5・6年生対象の学習会やPTA研修会を開催した。保護者からは、もっとメディアから離れ、自主学習や読書に目を向けてほしいとの声が多く寄せられている。	B	年6回の生活リズムチェックの実施は、大変なことではあるが、継続することが大切である。6割以上の家庭が読書や家族の触れ合いが増えたと感じている点は取組の成果として評価できる。	今後とも、生活リズムチェックを定期的に行い、継続して取り組んでいく必要がある。児童にとってチェックすることが目的とならないように、家族で楽しみながら、メディアとより良くつき合っていく手立てを考えられるようにしたい。学校保健委員会を通して取り組むことなども考えたい。
			家庭と連携し、食に関する関心を高める	食に関する授業 作って食べる、味見をする等の活動 食育についての発信	・食について勉強したことを生かして食べている (児童アンケート80%) ・児童に対して食への関心が高まるような働きかけをした (職員アンケート80%) ・食についての話題が増えた (保護者アンケート80%)	児童アンケート・・・111% A 職員アンケート・・・114% A 保護者アンケート・・・99% B	A	掲示板には、毎月児童が興味をもつように、「食育まじがいさがし」などを掲示した。また、できるだけ本物の食材を用意し、児童の目に触れるようにした。今年度は、参観日において全学級で食に関する学習を公開したり、学校保健委員会で児童の作った朝食メニューを紹介したりして、保護者の食に対する関心も高めることができた。	A	朝食メニューの紹介や良いメニューを実際に作って試食するなど創意工夫ある取組が評価できる。ぱっかり食べる傾向がある児童には指導が必要である。口を閉じて食べられない原因の一つに鼻呼吸ができないことがあげられる。様々な角度から児童の実態をとらえ、指導にいかしてもらいたい。
家庭・地域との連携	各種のたより等により情報発信し、家庭地域との連携を深める	学校通信月1回 学級通信月2回以上 図書館だより学期に2回程度 保健だより月1回 給食だより月1回 事務だより学期に1回 必要に応じた相談活動	・各種の便りを予定通り発行した (職員アンケート80%) ・学校からの便りによって学級内や学校の様子がだいたい理解できた (保護者アンケート80%) ・個人懇談やその他の相談では、担当者で話しやすかった (保護者アンケート80%)	職員アンケート・・・114% A 保護者アンケート・・・116% A 保護者アンケート・・・125% A	A	ほぼ計画通り各種たよりを発行し、HPでも情報発信した。保護者アンケートの自由記述においても、「いろいろなたよりがあってわかりやすい」、「日ごろの学校生活の様子が見え喜んでいる」などの内容が多くあった。 必要に応じて個別の相談活動を行った。内容によっては、担任の他に養護教諭、栄養士、特別支援教育コーディネーター、管理職等も同席し、話し合いを行った。	A	各種のたよりの発行や様々な相談活動を通じて、保護者の理解・協力がしつかり得られているように思う。学校通信に取り上げられた内容が大変よかった。伝統行事を児童に伝えていくことは大切であり、地域の人から教えてもらうことはよい経験である。火のつけ方や小刀の使い方など知らない児童が多い。ぜひ学校でも体験できる機会をつくってほしい。	今後も継続して、これまで同様の頻度で各種たよりを発行する。内容について、活動の成果に加え、課題についても情報発信し、課題解決に向けて家庭・地域との連携を深めていくことに努める。 また、感染症の情報も保護者に提供するようにしていく。必要に応じた個別の相談活動を今後も継続して行っていく。	